

2016. 6. 10

# 歴史民俗資料館だより No.114

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

## 戦時中のくらし展

**会期** 6月16日(木)～8月21日(日)  
**展示品** 貨幣・紙幣・切手・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭巾・もんぺなど約150点

昭和 12(1937)年の日中戦争勃発以降、第2次世界大戦へと向かい、日本は、戦時体制へと突入していききました。

そして長崎は、昭和 20(1945)年8月9日に原子爆弾が投下され、約24万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。

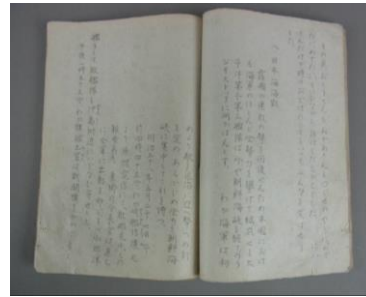
その当時、人々は様々な統制を強いられ、「ほしがりません勝つまでは」と質素、儉約のくらしをしなければなりません。日常生活に必要な物も手に入りやすく代用品や代用食がさかんにつくられました。

現在の豊かな生活と対比し、平和の尊さを考える機会として、このたび当館では「戦時中のくらし展」を開催いたします。

今回の展示に際しまして、貴重な資料をご寄贈、ご提供いただきました多くの市民の皆様と関係者各位に深く御礼申し上げます。



**産衣**  
 産衣には、昭和 15年に結ばれた日独伊三国同盟国や戦争にちなんだ図柄が描かれています。



### 手製の教科書

昭和 20 (1945) 年に現物がなく、女学校の学生(13～14 歳)が教師となり、小学 6 年生の教科書の挿絵を除き、1 冊 163 頁全てを筆写したものです。



### 戦時郵便貯金切手

金貳圓 昭和 18 年

### 戦時貯蓄債券

金拾五圓 昭和 19 年

多額の戦費調達のために、政府は各種国債を発行しました。



### 国防・防護団の記章

昭和 11 (1936) 年、戦時または事変に際し、警備・防空の必要に備える為、市内各種団体による市防護団がつくられました。翌年、国防婦人会長崎市支部ができました。



**半鐘**  
 昭和 16 (1941) 年に政府は、兵器生産のために金属回収令を出して供出させました。長崎市内の金属類も根こそぎ動員されました。この半鐘はそれに伴い供出されたものです。



紙芝居

**踏切番と子供達 昭和 18 年**  
踏切番と国民学校の子供達を通して、戦意高揚をはかっています。



**恩賜の煙草**

戦場で兵士が天皇陛下からいただきました。「賜」の文字の箱の中に日本専売公社製で菊の御紋の付いた煙草 10 本が収められています。



**千人針**

出征する兵士の武運と無事を祈願して、1 枚の晒し布に千人の女性に赤糸で一針ずつ縫ってもらいました。



**防空頭巾ともんぺ**

戦時中、空襲から頭部を保護するための防空頭巾と動きやすいもんぺは欠かせないものとなりました。



**軍用手票**

戦地、占領地で兵士が通貨の代用として使用した手形です。昭和 15 (1940) 年の 10 円札と昭和 19 (1944) 年の 100 円札です。



ほうろく  
金属製のほうろくは、戦時中に供出されて、このような陶器製に代りまされた。蓋の上に「戦勝」の文字が入られています。



エマル消火弾・陶製防砂袋  
昭和 19 年 8 月 11 日に長崎は米軍の B 29 爆撃機で初めて空襲を受けました。そしてこれらの消火器具は各家庭に常備されました。